

# 研究主題 児童が造形的な活動を思い付いたり、表したいことを見付けたりする学習指導に関する研究

—指導の手立てを明確にする題材構想シートの活用を通して—

【研究担当者】 福田 勝雄 吉田 澄江  
小原 ひとみ 赤坂 裕子  
佐藤 真

【この研究に対する問い合わせ先】  
TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562  
E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

## I はじめに

本研究は、図画工作科において、児童の活動のプロセスに目を向けた指導の手立てを明確にすることで、発想や構想に関する資質・能力を育成する学習の充実を図ることを目的に、表現領域の「ア 造形遊びをする活動」と「イ 絵や立体、工作に表す活動」において、教員が題材構想を深めることができる**題材構想シート**を開発しました。それを用いて研究協力員と共にその有用性を検証し、**創造的に発想や構想をする学習の充実**を図る学習指導の一例を示すことを目指しました。

## II 「題材構想シート」の開発

「子どもの思いを大事にしたいがどうしても指導的な要素が多くなってしまふ」など、上手く表現できない児童がいたり、活動の流れに沿えない児童がいたりすると、教員は手順を教え込んだり、計画の流れに引き戻したりするような一方的な指導を行ってしまうことがあります。この要因の一つとして、教員側に児童の作品の完成形のイメージが強ければ強いほど、その傾向になることが挙げられます。そこで、目の前にいる児童の活動のプロセスに目を向け、児童の主体性を大切にしながら、児童に必要な学習指導の手立てを構築する題材構想シートを開発しました。題材構想シートの有用性をまとめると、以下のア～カの6点になります。

- ア 活動の見通しをもつことができること
- イ 表したいことが思い付かない児童に対する対応を事前に準備することができること
- ウ 技能についての確かなアドバイスをすることができること
- エ 構想を明らかにしたり、活動の価値付けを行ったりする上で確かな発問をすることができること
- オ 児童の実態に合わせた場所の設定、使用する道具、準備する素材の分量、安全指導などの準備を整えることができること
- カ 授業者が発想を広げることができるとともに、児童に何を指導し、どのような資質・能力を育成するかを明確にすることができること

## 【研究構想図】

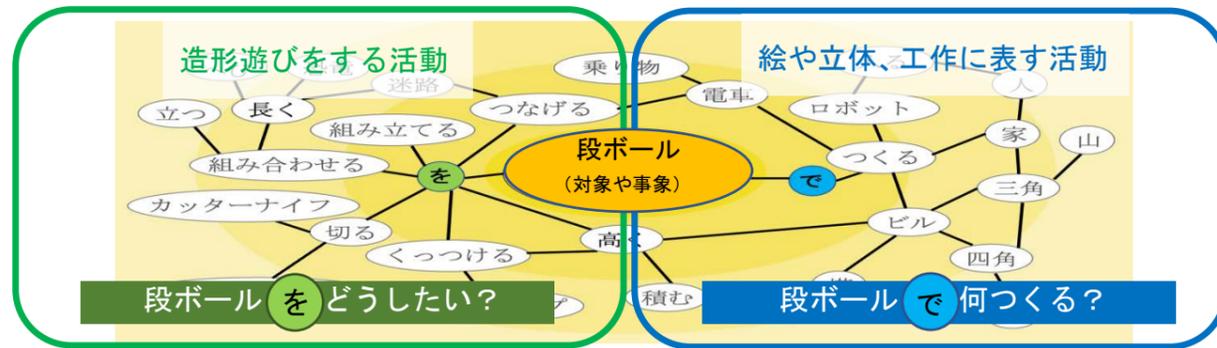


## 【題材構想シート】



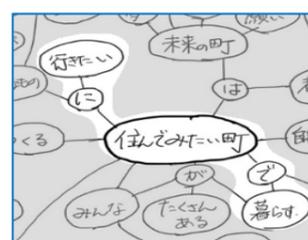
カ 授業者が発想を広げることができるとともに、児童に何を指導し、どのような資質・能力を育成するかを明確にすることができること

材料が同じ段ボールであっても、「段ボールをどうしたい?」と、材料を基に、造形活動のイメージを膨らませるような発問をしていくことと、一方、「段ボールで何をつくる?」と段ボールを使用して表したいことを基に形や色を意識しながら材料や用具の使い方を工夫して表したいことを表していくような発問をしていくこととは、アプローチが変わります。それぞれの題材構想シートを用いることで「A表現」の2つの領域を通して育成を図る資質・能力を明らかにすることができます。



## 題材構想シート(絵や立体、工作に表す活動)の活用について

実践2「ねん土マイタウン」(絵や立体、工作に表す活動) 指導者 総合教育センター所員



「住んでみたい町に行きたい」や「住んでみたい町で暮らす」というイメージから、前題材「小さなお気に入りの自分」で使用した自分のミニチュアを用いて、町を散歩しながら鑑賞することを考えました。児童が主体的に鑑賞できるような手立てを考えることができました。

## IV おわりに

題材構想シートを活用した授業では、教員は児童の思いや活動の一步先を想定しながら授業を進め、思いや活動を児童に委ねることができました。また、問いによって児童の主体性を引き出し、その児童らしい表現を大切にすることもできました。このことから、題材構想シートは、児童が創造的に発想や構想をする学習に有用性があるとことが明らかになりました。

今後は、更に、デジタル化が可能な部分については、デジタルデータに移行して負担を軽減すると共に、小学校教員の経験年数に関係なく、誰でも活用することができ、他の題材や他学年の授業においても活用できる題材構想シートになるように更なる検証によって明らかにしていきたいと思ひます。

○本研究の報告書は、下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。

<http://www1.iwate-ed.jp/kankou/kkenkyu/176cd/r02ken.html>



